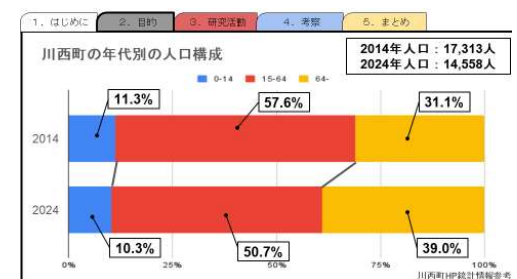
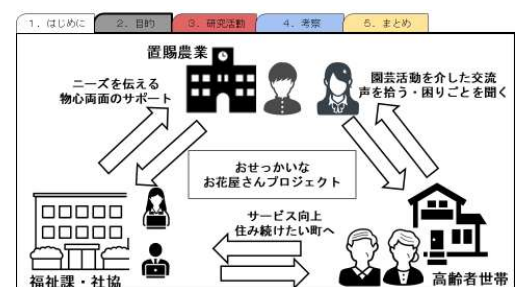
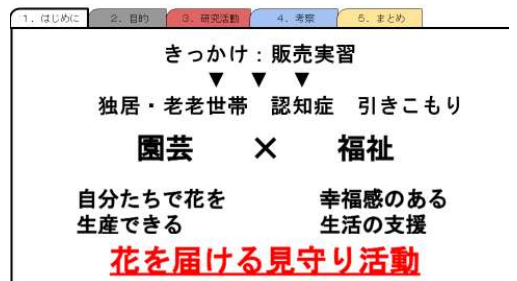


おせっかいなお花屋さんプロジェクト

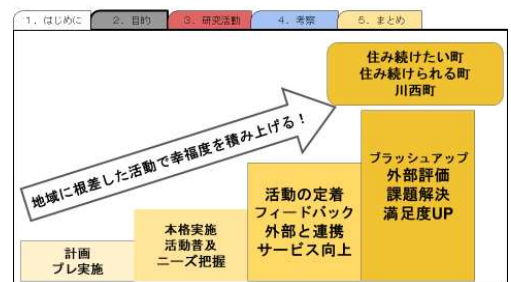
園芸福祉科 2 年 佐藤・佐藤 他 7 名

私たちが所属する置賜農業高校園芸福祉科では、日頃からシクラメンや花壇用の花苗の栽培と管理、またそれらの生産物を活用した交流活動や販売実習に取り組んでいます。販売実習では学校近隣の民家に訪問することが多くあります。その中で、独居老人や老老世帯、認知症のような症状が出ていたり、引きこもりのような傾向が見られる高齢の方を目にする機会が多くありました。私たちの先輩方は園芸福祉科としての特徴的な学びである「園芸」と「福祉」をかけ合わせ、花を届ける見守り活動を考案しました。具体的には私たち高校生が高齢者世帯を訪問し花を植えるなどし交流します。交流しながら困っていることや不安などをお聞きし、それを町の福祉課や社会福祉協議会と共有することで、サービスの向上につなげ、長く安心して川西町に住み続けてもらおうというものです。このアイデアを「おせっかいなお花屋さんプロジェクト」と名付け、昨年度の山形の未来創造高校生アイデアコンテストで発表、見事最優秀を獲得しました。

生物活用の授業で先生から「先輩方のアイデアを引き継いで取り組んでみよう」という話もあり、生物活用でのプロジェクト学習としておせっかいなお花屋さんプロジェクトの実現に向け取り組みを始めました。置賜農業高校のある川西町は 2014 年から 2024 年までの 10 年間で、人口が約 3,000 人減少、人口に占める 65 歳以上の割合も 31.1%から 39.0%へと上昇しています。高齢者世帯のニーズを汲み取り、関係機関と共有しながら福祉サービスの向上や、年老いても長く住み続けられるまちづくりについて貢献していく研究や取り組みは非常に大きな意義を持つと考えます。住み続けたい町、住み続けられる町作りに貢献していくために、ステップ 1 を計画とプレ実施とし、ステップ 2 は本格的に実施をしながら活動を普及していき、地



域の高齢者世帯のニーズを集めていきます。さらに、活動を定着させ、フィードバックを得たり、外部機関との連携を強化し福祉サービスの向上に貢献します。そして、このプロジェクトをブラッシュアップし続け、外部からの評価をいただきながら利用者の満足度を高められるような取り組みとし、地域に根ざした活動で幸福度を積み上げていくことを本プロジェクトの目的として考えています。



まず初めに私たちはアイデアを具体的にしていくために、草花業界で活躍する方に相談し、プロジェクトの運営や展開についてアドバイスをいただくことにしました。先生の紹介で長野県で株式会社アトリエアトリを経営する末永様に相談させていただき、プロジェクトのコンセプトの具体化に取り組みました。末永様は「花から始める親孝行」をコンセプトに、生花の配達と家事の手伝いをするというサービスを提供しています。事業を始めて3年目となり、「子どもや孫に比べ、親に対しての財布の紐は固い」という印象を受けているそうで、ビジネスとして成立させていく難しさを語ってくださり、補助金や行政からの支援を上手く活用していくと良いというアドバイスをいただきました。そして、「いつも販売実習に来てくれるみなさん」が継続して足を運び、一緒にお話をしながら花を植えるというのは、利用者視点から見れば安心できる環境で楽しいアクティビティになりリピートも期待できる、と背中を押していただきました。

・プロジェクトのコンセプトの具体化
花から始める親孝行

【生花の配達×家事の手伝い】

株式会社アトリエアトリ
代表取締役 末永あとり 様

事業を始めて3年目
「子や孫に比べ、親に対しての財布の紐は固い」
ビジネスとして成立させる難しさは大きい

補助金や行政からの支援を上手く活用していったら

次に、プロジェクト規模の検討に取り組みました。プランター、園芸用土、花苗の経費を算出すると1世帯あたり¥3,900 掛かると考えました。今年度はフューチャープロジェクトの一環として実施、試行する見込みが立ち、まずはプロジェクトの告知に取り組みました。初めに学校周辺の川西町上小松地区を対象とし実地踏査を行いました。赤で囲んだところには民家や事業所を合わせて合計78軒あり、そのうち玄関に花を飾っ

・プロジェクトの規模
活動資金・予算の検討（1世帯あたり）

項目	単価	個数	小計
プランター・鉢	300	5	1,500
園芸用土	500	2	1,000
花苗	70	20	1,400
合 計			3,900

今年度 フューチャープロジェクトの一環として実施・試行



近隣住民へのポスティング 手作りチラシの作成

問い合わせ 2件のみ

ていたり、ガーデニングに取り組んでいる家は48軒ありました。約6割の家が園芸に馴染みがあると見て、学校周辺にも需要は存在すると考えることができました。

私たちは近隣住民へのポスティングのためにこのようなチラシを作成しました。しかし、実際に問い合わせがあったのは2件のみで、自分たちの見込みとは大きく離れた結果となってしまいました。プロジェクトの実施に向け、私たちはスキルアップにも取り組みました。本番を想定したロールプレイでは対象者役と生徒役に分かれて、高齢者をイメージして大きな声でゆっくり話したり、楽な姿勢で作業できるように介助のトレーニングをしました。1回目の実施ではAさんのお宅にお邪魔し、友人のBさんも一緒に活動しました。

「若い人と話すと元気が出る」、「玄関が華やかになった」という声をいただくことができた一方、実際に高齢者の方を相手にしてみるとロールプレイで意識したところがなかなかできない場面も多くありました。

そういった反省点を日本園芸療法学会の浅野様に相談させていただいたところ、「一発勝負でやろうとせず、対象者の理解、アセスメントをしっかりやってみると良い」とアドバイスをいただきました。好きな花や色だけでなく、高齢者特有の立つ座る、握る動かす、といった身体的な特徴も踏まえてプログラムを考えていく必要があるとのことで、回数を重ねて対象者のイメージを濃くしていくことで活動がより良くなっていくはずだと教えていただきました。また、活動時の写真を見ていただくと、イスが低くて作業がしにくそうで、身体に負担が掛かる姿勢に見えるなど、たった1枚の写真からも様々なご指摘をいただき、改善の方向性を示していただきました。

1. はじめに 2. 目的 3. 研究活動 4. 考察 5. まとめ

スキルアップ 園芸療法の理解
 ▶対象者の身体的・精神的な特性、病気や障害に応じた活動のためにトレーニング



対象者役 生徒役

高齢者をイメージして
 ・大きな声でゆっくり話す
 ・楽な姿勢で作業してもらう

1. はじめに 2. 目的 3. 研究活動 4. 考察 5. まとめ

・川西町上小松 AさんBさん 70代女性



バンジー・ビオラの寄せ植え

1. はじめに 2. 目的 3. 研究活動 4. 考察 5. まとめ



一発勝負でやろうとするよりも
アセスメントを実施してから活動してみよう

好きな花、好きな色
 立てるか、座れるか、握れるか、動くか

日本園芸療法学会
 代表理事
 浅野 房世 様

回数を重ねて対象者のイメージを濃くしていくことが活動の充実につながっていく

1. はじめに 2. 目的 3. 研究活動 4. 考察 5. まとめ

・川西町在住 AさんBさん 70代女性



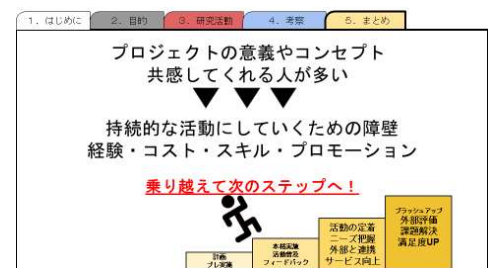
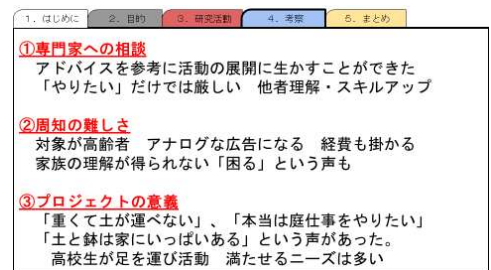
イスに座れず
タオル敷いて膝立ち

低すぎるイス

高さが合っていない

台がなく
辛い姿勢での作業

今年度の取組を踏まえた考察になります。まずは、専門家や経営者の方とつながり、アドバイスを参考にプロジェクトの内容充実につなげることができました。自分たちの「やりたい」という気持ちだけで突き進むことはできず、他者理解とスキルアップが必要だと感じています。ポスティングの結果として問い合わせが2件しかなかったのは大きな誤算であるとともに、プロモーションの難しさを痛感したところです。対象が高齢者ということもあり、SNSなどの手軽なツールは使いにくく、アナログな方法に依存することになってきます。また、チラシやポスターの作成やCMを検討しても、園芸用品以上の経費が必要になってくるなど難しさを感じています。実際にプロジェクトに取り掛かってみると、「土が重くて運べないから来てくれるのは助かる」、「本当は庭仕事をやりたい」、「花を植えるくらいならできそう」という声もあり、潜在的な需要は少なくない印象を受けました。また、土と鉢は昔使ったものがあるという方もいて、そういった資材を活用できれば経費の削減にもつながられます。



課題としては、4つあり、1つ目は活動の周知とPR活動です。今年度中には川西町役場福祉課、川西町社会福祉協議会、介護施設の施設長と面談予定で、活動における物心両面での支援について相談する予定です。また、ターゲットを絞って効率的に周知できるようにさらに研究していきます。2つ目は資金の確保です。JOUROの青木様からアドバイスをいただいたように、クラウドファンディングの実現に向け、根拠のある活動資金を算出し、計画を深めていく必要性を感じています。3つ目は私達自身のスキルアップについてです。他者理解と活動しやすいプログラムの設計のために更に知識と技術を磨く必要があります。また、アトリエアトリの末永様からは「高齢者傾聴スペシャリスト」という資格があることもお聞きしたので、そういった資格取得も考えながら活動していきたいです。最後に参加者からの評価についてです。有効なフィードバックを得るために、どのように評価してもらうか、どのような評価項目を設定するかを検討していきます。私たちの活動が川西町の未来を照らし続ける光になると信じ、これからも頑張っていきたいです。